

Who is Next? ヨーロッパキャンプ レポート

No.1

① ロバニエミ

ロバニエミでは、サニタスポーツに宿泊した。この施設にはプールや沢山のトレーニングマシンがあるジム、約200mのトラック、新体操に使う用具、サッカーやホッケーができる広いコートがあった。朝早くからトレーニングをするために沢山の人がこの施設を利用している。若い人だけでなく、年配の人の利用も多い。

トレーニングでできるのは、施設内以外にも外にアスレチックやサッカー競技場がある。車道の隣にローラースキー専用の道があった。選手以外にも、このように道が整備されているため一般の人でもローラースキーのトレーニングができる。

ロバニエミには、544万人のうち6万人というたくさんの方が暮らしており、スポーツにとっても力を入れていると感じた。

元バイアスロンのコータで現フィンランドスキー連盟の部長を務めているエーロエンにお会いすることもできた。ここでのトレーニングでは、オリエンテーリングの大会に参加した。フィンランドでは各地で行われていてとてもメジャーなスポーツとなっている。ロバニエミでは週1度行われており、小さな子供から老人まで幅広い多くの方が参加していた。ただ体力任せに走るのではなく地図を見ながらチェックポイントを通過しゴールを目指さなければいけないので、頭も体かも使い、良い経験になった。

② ボッカティ

フィンランドバイアスロンコータのアンティーさんに、スノーホリスの施設案内をして頂いた。スノーホリスの施設内には滑っている時のホムの確認などに使われるローラースキー専用の機械があり、見学をしている時にちょうど機械を使っている選手を見ることができた。その他にも、スキー板、ストックの強度や仕組みを調べる事ができる機械などたくさん機械があった。

ボッカティにスポーツサイエンス学部などがある大学を設立した理由の1つがスキートンネルなど1年中ウィンタースポーツができる環境があるからというのと、優れた選手をたくさんいたからとの事だった。

私達も実際にスキートンネルにてクロストレーニングを行う事ができた。

トンネル内は、-5℃ととても寒く、雪は氷を砕いたようなシャリシャリの状態だった。

距離は片道1.25kmと短いけど、アップダウンがしっかりあるので冬場のトレーニングと変わらない環境でトレーニングができた。

シーズン前から、こういった環境でクロストレーニングができるのがうらやましい。

No. 2

スキートネルの他にも、スポーツホテルの外には、大きなグラウンドがあり、日中朝早くから夜8時ぐらいまでたくさんの人がサッカーをしたりして、にぎわっていた。

③ ラハティ

フィンランドの中学校の体育の授業と美術の授業を体験する事ができました。

皆、中学生にも関わらず体格が大きく、大人に見えてもおかしくないような子がたくさんいた。校内は、とても広くて教室も1教科に1教室とたくさんあった。

昼食は10時30分と早目でその後にもう1回ご飯を食べる時間があるので、体格が大きいのはこの事も関係しているのだと思った。

フィンランドの学校では、日本のように先生と生徒の間に上下関係がないため、友達のように接していた。

ラハティはロバニエミとホッカタティとは違って、都会の雰囲気があった。道路がレニカ造りでヨーロッパのイメージにピッタリの街並だった。

2017年に行われる、世界選手権で使用するジャンプ台を見学した。夏場は、ラニエルのブレーキトラックはプールとして使用されるため、この時期は、改修工事を行っている最中でしたが、日本代表の選手も早くジャンプ台を見る事ができて、スタートにも上がる事ができてとてもいい経験になった。

自分もこの台を飛んでみたいと思った。

STARTワックスの工場では、ワックスについて詳しく説明していただいた。正しいワックスの仕方をお教えていただいた。いつも、自分がしているワックス方法とプロのするワックス方法がまったく違かったので、今回教えていただいた事を活用していく。

④ ヘルシンキ

首都ということもあり、たくさんのお店が並んでたくさんの人でにぎわっていた。

フィンランドに教会というのは、あまりイメージにはなかったのですが、たくさん教会があった。中でも、テンペリオキア教会は岩の穴をくりぬいたものの建物になっていて、日に何回も結婚式がくり返し行われるほど人気がある。

No. 3

5

高校、大学生になれば「フィンランド」(外国)へ行く機会があると思います。中学生のうちにそれを経験できたのは自分にとってとても大きいと思います。合宿だけでは体験できないSTARTワークス工場の見学や中学校で実際に授業を受ける事などとても貴重な体験をする事ができました。

食文化などが多く、日本とは違っているのでおどろいた事、新たな発見がいくつもありました。私がこの合宿で一番印象に残ったのが、スポーツのできる環境が周りにたくさんあり、小さな子供から年配のお年寄りの幅広い世代がスポーツに親しんでいるという事です。フィンランドすべてがトレーニングエリアの様にも感じるところでスポーツに力を入れている事が分かりました。

1週間と短い期間ではありましたが、内容が詰まった濃い充実したキャンプとなりました。

今日このように、中学生のうちに世界を学ぶチャンスにあたえていたきっかけのもと、このキャンプを企画した内田洋介さんはじめWho is Next?寄付金でシャツにご協力いただいた多くの方のおかげです。ありがとうございました。

たくさんの方の協力があり、体験できた事なので、この経験を無駄にしないようこれからのスキー人生に生かしていきたいと思います。

本当にありがとうございました。